
スマプラメンバーを1つの町に凝縮中

ほーき雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラメンバーを一つの町に凝縮中

【Zコード】

Z2698Z

【作者名】

ほーき雲

【あらすじ】

五武山市、僕の小説の大半はここが舞台である。だったらスマブラメンバーをここに住ませてみたらどうだろうか？いちいち五武山市に来る必要はない。最初からいるのだから。（笑）

そんなテンションで始まったが・・・。

スマブラメンバーの他にもとある魔術の禁書目録、塊魂のキャラクター、さらに一部オリキャラも登場します。

プロローグ（前書き）

予告編の続きです。見てない方は活動報告のアーカイブをご覧ください。

プロローグ

ある日、ほーき雲は立ち上がった。

ほーき雲「スマブラメンバー全員探すつて絶対1人じやきつい。しかも五武山市つていう広い場所に散らばっちゃつてるんだもん。」

実は全員ほーき雲の近所にいるのだが・・・。

ほーき雲「誰かに救援要請しよう。」

マスター・ハンド「あれ? ほーき雲からメール?」

クレイジーハンド「ほーき雲からメール?」

D「ほーき雲からメール来たよ。」

『【救援要請】五武山市内に散らばつたスマブラメンバーを全員僕の家に近くに集合させてください。僕一人じゃ足りません。よろしくお願いします。』

ちなみに、Dって何だ!/?って思った人は大規模な逃走中にて詳細を知ることができます。

マスター・ハンド達「探すか!」

全員ほーき雲に協力するようになつた。

みんなほーき雲の家から離れたところに行つた時、スマブラメンバーは・・・。

リンク「みんなどうする?」

リュカ「家でゲームやる!」

ルイージ「4人1組になつて分かれよう!」

全員「賛成!」

こいつらが家にいる限り、ほーき雲達はスマブラメンバーを1人も見つけられないだろう。

続く

//ナカ 捜索隊（前書き）

「いつだね」と思いましたか？

//サカ搜索隊

ほーき雲はスマブラメンバーを探す途中、ある少女に出会った。

ほーき雲「ちょっと打ち止めちゃん。人探しに協力してくれない？スマブラメンバーを探しているんだけどね。この五武山市のどこにいるのかわからないんだ。そこで君を含めた9970人でスマブラメンバー達を探して欲しいんだ。」

打ち止め「それじゃ、全妹達に指示してみる。ついで//サカは//サカは了解してみたり。」

その瞬間、いきなり9969人が現れた。しかも全員全く同じ服装、全く同じ体型である。

シスター^ズ
妹達。

それはある電撃使いのクローン体である。20000+1体が造られたが、そのうち10031体はある『最強の超能力者』によつて殺されている。

ちなみに、+1体というのは制御個体で、ほーき雲が出会った少女のことである。

ほーき雲「これだけいれば全員見つかるだろ？。」

打ち止め「でも、//サカは行かないよ。ついで//サカは//サカは自分の参加だけは断つてみたり。」

ほーき雲「十分だよ。9969人もいるのはありがたい。さらに僕もいれてマスター達もいれて9973人。これで見つからなかつたらヤバイよね。」

そして夕方。

ほーき雲「かなり疲れた・・・。見つかつた?」

検体番号「12345」「すみません!見つけたのですが逃げられました。とミサカは失敗報告をします。」

ほーき雲「ビリで見つけたの?」

検体番号「12345」「ちょいづび」の家の隣ですよ。とミサカは報告します。」

ほーき雲「・・・え?」

検体番号「12345」「ですから、この家の隣でマリオと思われる赤いおつさんを見つけました。とミサカは再度言います。」

ほーき雲「・・・まさかみんなもうここに住んでるの?」

検体番号「12345」「その可能性が一番高いです。とミサカは脳内の計算により当然の答えを出します。」

ほーき雲は隣の家をノックしてみた。

「マリオ」「あつ、ほーき雲だ。ゲームしたいの？」

「ほーき雲」「・・・君達ここに住んでたのね。他の人達は？」

「マリオ」「みんなこの近くの家に住んでるよ。」

「ほーき雲の力は抜けてしまった。その後、どうやって夕御飯を食べて、眠りについたのか覚えていなかつた。」

続く

//ナカ 捜索隊（後書き）

いきなりスマブラ以外のキャラクター出しやがって・・・。

市長が死んだ。（前書き）

いきなり何があつたんだ！？

市長が死んだ。

翌日

ほーき雲「ああ、よく寝た。」

リンク「うちはお前の家に連れていくの大変だつたんだが。いきなり氣絶しやがつて。」

ほーき雲「すぐ隣だらうが。」

ヨウシー「さうやへ、ういら辺に空き家にくつあるの?」

ほーき雲「50を越えてるつて聞いた。」

ピット「だから1人1件でいいんだ。」

ほーき雲「とにかくたくさんあるんだよね。」

新聞社の人「号外！号外！大変なことになつたぞ！」

ほーき雲「大変なことになんだけ？」

ほーき雲は号外新聞を一つもらつ。

ほーき雲「なんだつてえ——————。」

ロ「えりつたの？」

ほーき雲「市長が・・・・死んだ。」

ほーき雲以外「なにいい————！」

ほーき雲「それでさ、新市長の立候補者がコイツ一人だけなんだけどね。」

ほーき雲以外「はあああああ————！」

ほーき雲「ね。ヤバイだろ。」

ネス「来たばかりなのになんでこいつなるの？」

ほーき雲「知るかよ！しかも問題はこじやねえー。」

スネーク「じゃあなんなんだよー。」

ほーき雲「五武山市民のほとんどがコイツを支持してるんだよ。」

ほーき雲以外「ヤベ————！」

ほーき雲「ほら、あっちで『ヤツ』が演説してるんだよ。」

ほーき雲以外「本氣か・・・。」

続く

市長が死んだ。（後書き）

立候補者は危ないやつらしき。

新市長大作戦（前書き）

誰なんだよー？だいたいわかるかな？

新市長大作戦

ほーき雲「ほら、あれを見ろ。」

ほーき雲が見ているものは・・・。

タブー「これから私タブーが新市長となるのです!皆さんぜひ私に投票をお願い致します!」

ほーき雲「わかつただろ。大声でタブーが演説してるんだ。しかもあいつ以外に立候補者はいない。このままじゃタブーが新市長。となれば五武山市は終わるだろうな。」

リュカ「こんなのどうすりやいいんだよ・・・。せつかく来たばかりなのに・・・。」

ほーき雲「方法なら一つある。他の誰かが立候補して選挙に勝つんだ!」

マスター「ハンド」しかし、それが難しいのは自分でもわかってるんだ。今のタブーの支持率は最大。そこをどうやって勝つか思い

付かないんだる。普通やつだら。誰が立候補するのかすり決めてないのにな。」

マスターの発言は最もである。しかし、それを否定するかのように発言をした者がいた。

D「もし、僕を含めた皆の仲間たちの中で、『リーダーシップ界の王』と呼ばれる男が立候補したらどうなると想ひ?..」

ぼ一き雲「そういうやつがいたら苦労しないよ。」

D「やうこいつは実際にこる。しかも遊び、仕事に関わらず最高のリーダーシップを見せる男。そいつが何回仕切っても誰も文句を言わない。しかもそいつの夢は政治家だ。市長になるのも第一歩になるはずだぜ。そいつの夢のため、タブーからこの五武山市を守るために、そいつを立候補させてみないか?..」

全員「おお-----」

ぼ一き雲「おい、1つ言つておぐれ。勝てるかわからないのはわかっているが、もし勝つたとしたら、タブーは攻撃するかもしね。その時のために、選挙当口は戦闘態勢に入つとけよ。」

アイク「そこの人は大丈夫だぜ。なあみんな。」

アイク以外「おおー————！」

D「よし！その勢いだ。それじゃ、やつのところへ行きますか。」

続く

新市長大作戦（後書き）

果たしてどんなやつなのか？タブーが市長にならじとを止められるとか？

T（前書き）

この小説は文字数の目安を400～700文字にしてるから毎日更新できません。

T

D「おーい。」

????「なんだ、Dじゃないか。」

D「お前、五武山市の市長になれるとしたらなりたい？」

????「そりゃなりたいさ。地方自治でもいいからやつてみたいもんだな。ところで、たくさん人を連れてきたな。どうしたんだ？」

ほーき雲「突然市長が死んで、新市長立候補者がタブーっていう悪いつしかいないんです。」

????「そりゃいけねえ。僕が新市長立候補してやる。ちなみに、僕の名前はTだ。」

ほーき雲「T? Dに続いてTですか?」

T「そうだけど?」

ほーき雲「おこD。これはどうにうじとだ?お前の仲間はアルファベット1文字のやつしかいないのか?」

D「うーん。それが大半を占める。でもそれ以外もいることにはいる。」

ほーき雲「突然だけど例え話しようか。例えば、僕がマルスに腹が立つたとして。」

マルス「なんで俺なんだよ。」

ほーき雲「僕がマルスをボコボコにしたとする。この小説を読んでいる人にはマルスが好きな人が若干いることにいるんだよ。」

マルス「なんで若干しかいないんだよ。」

ほーき雲「だけど君はオリキャラだから君のことが好きなやつは超不人気マルスよりも少ないことになるんだな。」

D「それがどうしたのかな?」

ほーき雲「つまりマルスよりも強力に痛めつけてもいってことになるんだよ。」

D「なんで何氣なく武器持つてるのかな?」

ほーき雲「僕だって武器くらい持つんだよ。まあどうする?..」

D「そもそもなんでこんな目にあつているのかわからな・・・」

ドカーン!-

Dは奇跡的に生きていた。

ほーき雲「もつとまともな名前のやつを友達にするよつ。別に今仲間を見放せとは言わないから。」

D「また今度紹介します。」

何はともあれ、新キャラのトと共にタブーの新市長阻止作戦が始まつた。

続く

T（後書き）

Dはいい人なんですよ。今回ひどい目にあつただけで。

みんなで作り上げる作戦

ほーき雲たちは選挙に向けて頑張っていた。立候補するのはTだけだが、ほーき雲やスマブラメンバー達には絶対にTを新市長にしなければならない理由があった。彼を市長にできなければタブーが市長になるのだ。

ほーき雲「僕達も協力してるし、Tも演説がんばっているし、なんとか新市長になれるかな。」

D「僕だつてちょっとケガしてるけど、Tの直接的な友達としてしつかりフォローしていかなくちゃ。」

ほーき雲「よくちょっとのケガで済んだな。」

ほーき雲達は、Tが新市長になるために、タブーが新市長になるのを阻止するために、2つの思いを込めてポスターの貼り付けを始めとする手伝いをしている。

選挙前日

T「きっと大丈夫。みんな頑張ってくれたじゃないか。タブーがなんだ。あんなやつを市長にはしない。」

ピット「頼もしい。」

ほーき雲「なあ、みんな頑張ったもんな。タブーなんかに負けないよな。」

全員「おお-----！」

ほー也雲「あとは結果を残すのみだ！」

続く

みんなで作り上げる作戦（後書き）

次回は選挙本番。丁か？それともタブーか？

選挙中、役所前

ほーき雲達は五武山市役所に来ていた。・・・と言つても来ているのはほーき雲、D、Tの3人だけ。スマブラメンバーまで全員で来られたらすゞいことになるからだ。

ほーき雲「次々と人が市役所を出入りしている。みんなで投票してるんだね。」

D「あれ?タブーも来たぞ。」

タブー「おや?もしかして突然現れた2人目の立候補者とは君のことかなほーき雲君。」

ほーき雲「僕じやない。」いつだ。」

ほーき雲はTの腕をつかんで言った。

タブー「知らないやつだな。」

ほーき雲「お前、ポスターはちゃんと見る。市のあちこちにTって書いてあるだろ。どこにほーき雲の名前があつた?言つてみな!」

タブー「こんなことで強気になりやがつて。俺がそいつを知つて無かるうが、選挙で勝てばいいのだ。」

T「お前みたいなやつには負ける気がしないな。協力ということを知らなそうだ。」

タブー「何を言おうと俺の演説は大人気だ。」そのままだと俺勝つよ。
勝つて恥かかせちゃうよ。」

ほーき雲「やってみな！」

役人「これより投票を終了します。得票計算までしばらくお待ちください。」

ほーき雲「ああ、投票が終わった。あとは結果だけだぜ。」

続く

選挙中、役所前（後書き）

これ一応コメデイーだよね？本気でいがみあつちやつたりバトルしたり・・。

5
倍

役人「選挙結果が出ました！丁氏がタブー氏の約5倍という差で勝ちました！」

タブー「許せない・・・・・許せないぞ！！」

タブーが暴れだした。

ほーき雲「予想通り、とことん裏切らないね。スマブラメンバー達。今が腕のみせどころだぜー！」

スマブラメンバー一斉にタブーに突撃。

しかし、それで降参するタブーではない。必死で抵抗していく。

フォックス「スマートボム!」

ルイージ「ファイアジャングルパンチ！」

あちこちから攻撃が飛んでくる。やはり人数では勝てないのだろうか。

ネス「スマッシュ・ショボール!」

リュカ「スマッシュボール!」

ほーき雲「さあやつちまえーー！」

ネス・リュカ「PKスターストームーー！」

無数に降る青と黄色の隕石。それをタブーは何回も当たっていく。

タブー「絶対仕返ししてやるーー絶対だぞー！」

タブーは一応去ってつた。

全員「タブーを倒したぜ！」

そしてタブーは

タブー「スマブラメンバーおのれ。。。

タブーの近くに白っぽい男が現れた。

タブー「あいつ殺せば少しほどスーツとするかな。。？」

タブーは白っぽい男に襲いかかる。

その瞬間の出来事だつた。タブーが男に触れた瞬間、はねかえすような力が自分にかかっているのがわかつた。

一方通行「なんだお前？」

タブー「お前こそ何者だ！」

一方通行「何者だだと？ならば問題です。学園都市最強のレベル5
といえば誰でしょうか？」

続く

5倍（後書き）

一方通行、読み方は『アクセラレータ』です。

一方通行（アクセラレータ）（前書き）

敗北したタブーのもとに現れた ^{アクセラレータ}一方通行。どうなるでしょう？

一方通行（アクセラレータ）

一方通行「俺をナメンなよ三下ア！」
アクセラレータ

タブー「お前が何者かは知らないが、俺がここで退く訳ねえだろ！」

一方通行「ならばここで問題です。この俺、一方通行は一体何をしているでしょうか？」
アクセラレータ

タブー「知るか！」

タブーは構わず一方通行に攻撃する。何発も何発も。撃ちまくるが、一方通行は全ての攻撃を自分に触れた瞬間にはねかえしている。

タブー「お前、反射してるのか？」

一方通行「残念。ちょっとおしげけど、俺のしていることとは違つ。」

否定された。

一方通行「答えはベクトル変化。運動量、熱量、電気量。あらゆるベクトルを触れただけで変化できる。」

タブー「つまり、攻撃は当たらぬって訳か。・・・ビーム系ならね！」

タブーは今度は一方通行に体当たりをしてきた。

一方通行「いりねハやつだなア。しうがねH。30倍で反射してやるよ！あばよ三下ア！！」

タブーが一方通行に触れた瞬間、タブーはす”い勢いで吹っ飛んだ。こうして、タブーを巡った五武山市の危機は無事ハッペーンドを迎えたのだった。

その頃、ほーき雲の家は

ほーき雲「おっと、タブーが吹っ飛んでる。2度と来るなよ。さあ、明日から楽しい日常生活を送るぞー絶対に空き家村とは言われなこよくな愉快な場所にしてやるぞー！」

続く

一方通行（アクセラレータ）（後書き）

次回は新しい章に入ります。

大騒ぎしても近所迷惑にならない

タブーがいなくなり、平和な五武山市。しかし、空き家村では大騒ぎが起こっていた。

ほーき雲「いいか?」こは空き家村だ。そこに僕達は住んでいる。つまり、この周辺には僕達しかいないことになる。それはどういうことか。答えは大騒ぎしても近所迷惑になりにくいくらいのことなんだぜ!さあ、叫べ騒げの大盛り上がり大会を始めようぜ!…」

全員「おおー————!!」

ほーき雲「まずは大食いゲーム!!ルールは簡単。カービイかヨッシー。どちらがより多く食べるかを賭ける!—ちなみに僕はカービイに賭けるよ!」

ゼルダ「私はヨッシーに賭ける。」

ネス「僕はカービイに賭ける。」

カービイ「絶対負けない。大食いは僕の大事な特徴。それで負けたらカービイの名前が傷つく。」

ヨッシー「よく言つじゃん。こつちだつて伊達に長い舌出して食いまくつてる訳じやないんだよ!」

ほーき雲「よーい・・・・・スタート!」

カービイ・ヨッシー「いくぞ!」

続
<

限界が知りたい。

ほーき雲「カービィに賭けた人も、ヨッシーに賭けた人も、みんなで食べ物を戦場に運びましょう。やはり用意した食べ物を全部押し込めるのは無理でした。」

全員「正直面倒だけどまあいいよ。」

こうして、みんなで大量の食べ物を運んで行く。たぶんみんな同じことを考えているだろ？。

『食い過ぎだよ…普段の食事では全然満たされてないわけ…?』

そして、『戦場』に着いたほーき雲達は見た。

食べ物が無くなっている。しかも、両者共に次の食べ物を少しイライラしながら待っている。

ほーき雲「まだ余裕そうですね。」

カービィ「当たり前だよ…」

ヨッシー「早くみんなが持つてきた食べ物ちょうどいい…」

ほーき雲「はい。」

テーブルに置いた瞬間、両者共に恐ろしげにスピードで食らいついていく。

ルイージ「ほーき雲、もうこれで最後だよ。」

ルイージの発言を一切無視し、最後の食べ物も全て食べてしまった。
ほーき雲「これ以上食べ物は用意してないので、『2人で僕に勝つ
た』といつことにします。」

こいつらの食事量は計り知れない。

続く

限界が知りたい。（後書き）

タイトル通り、こいつらの食事量の限界が知りたい。

なお、これからこの小説のみ感想返信担当を作ります。（スマブラメンバージャないけど・・・）

奇数日 アクセラレータ 一方通行 偶数日 打ち止め（ラストオーダー）

が基本ですが、時々臨時で代役が担当することもあります。その時は後書き欄にちゃんと書きます。ちなみに今日は15日なので今日中に書いた感想は一方通行が返信します。

新登場

ほーき雲「突然ですが、新メンバーの登場です。ただし、知らない人が多いと思うので、簡単に紹介します。」

新メンバーを連れてきたほーき雲。

ほーき雲「また、これより『空き家村グループ』といつ名前が誕生します。」

リュカ「早く新メンバー呼んでください。」

ほーき雲「新メンバーはこちら、塊魂の王子とイトコハトコヒルキーの皆さんです。」

王子「よろしく~。」

エース「面白そうだね。」

変わったキャラクター達がたくさん現れ、スマブラメンバーも注目している。そして中でも注目を浴びていたのがディップである。

ポポ「すごい! あちこちカラフルに光ってるよ!」

ディップ「どうも! ディップです。よろしく~。」

???.「とにかく僕の存在に気づいていますか?」

マスター・ハンド「わっ! ……すぐ隣に透明人間! !」

「 ジャングル「ジャングルです。僕は透明なのでそこそこよろしく
お願いします。」

ほーき雲「こうしていいメンバー集まつたでしょ。他にも特徴的な
キャラクターがたくさんいるからちゃんと交流してみることをおす
すめするよ。最後に空き家村グループの意味を説明します。」

突然結成された空き家村グループ。どういう意味があるのか?それ
は次回です。

続く

新登場（後書き）

今日は感想返信はラストオーダーがします。

打ち止め「わーいわーい。つてミサカはミサカは空き家村グループに入りたいと思いながらも喜んでみたり！！」

空き家村

空き家村。

原因は不明だが、五武山市のある場所にたくさんの家が建てられた。しかし、これらに住む人は一人しかいなかつた。その一人がほーき雲である。

ほーき雲が住んでる1件を除いて誰も住んでいなかつたため、空き家村と呼ばれている。

そこへ今回、スマプラメンバーをこの空き家村の大量の空き家に住ませることにした。

空き家は確かに減つた。しかし、まだたくさん残つてるのが現状。つい先日までほーき雲も50件くらいしかないとと思っていたが、実際は数えきれないほどある。

ほーき雲はこの空き家村といつ名前を消すことが目的で、スマプラメンバーに加え、塊魂のイトコハトコ達も住ませたが、まだまだ空き家は残るのが現状。しかし、今までとは違い、住んでるのは1人ではない。住民は少しづつ増やせば良いだろう。と楽観的に考えられるようになつた。空き家村グループとは、空き家村といつ名前を消すためのグループである。（空き家村といつ名前が消えた時、グループ名も変える予定らしい。）

ほーき雲「それじゃ、新住民探して来るよ。」

ジュン「こつてらつしゃいほーき雲。」

バンバン「絶対空き家村なんて名前消してやるつねー。」

空き家村と呼ばれるエリアを抜けた瞬間、ほーき雲はつぶやいた。

ほーき雲「空き家村といつも前もそつだけど、このホールの名前も
変えてやりたいよな。」

そこには、ほーき雲がスマブラメンバー達を集合させるために使つ
ているホールがあった。

そして、そこには『境界ホール』と書かれていた。

続く

お家村（後書き）

次回は、ほーき雲が外出中の時のスマップラメンバー達の生活をお送りします。

塊魂キャラクタースマブラ初挑戦

フーミン「炸裂！」

フーミン以外「いやいや、全然意味わかんないからーー！」

フーミン「い、じゃん！」

マリオ「ねえ、塊魂のみんな。スマブラXやってみない？」

王子「やつてみたい！」

1回戦

ディップ 使用キャラ ネス

ミソ 使用キャラ アイスクライマー

オデコ 使用キャラ ヨッシー

イチゴちゃん 使用キャラ ピーチ

エリア マリオサー キット

3個ストック制

スタート！

王子「僕の番はまだなのかなー!?」

フーミン「ま～ま～」

王子「なんなんだよお前!」

フーミン「フーミンだけど?」

王子「・・・」

ディップ「PKフラッシュも当たると強いけど当たりづらい。」

ミン「ヤバイ!ナナがやられた!!ポポだけじゃかなり不利だ!」

オーテ「なんか虹色のボール取つたら羽生えたよ!」

イチゴちゃん「ギャー!..」

イチゴちゃん残リストック2

ディップ「なんだ?爆弾箱?遠くからPKサンダー当てるみよ!」

ボカーン!!

ミン・オーテ「何するんだ!..」

ミン・オーテ残リストック2

ディップ「ここ車走ってるから避けるのつらい。」

イチゴちゃん「何これ?Bって書いてあるけど。」

イチゴちゃんはそれを投げた。

イチゴちゃん「あれ？ 何も起こらないよ。」

ディップ・ミソ・オデコも近寄る。

その時！

ババババババ――――――!

ルイージ「それはスマートボムの不発弾だね。」

ディップ残りストック2

ミソ・オデコ・イチゴちゃん残りストック1

続きは次回

塊魂キャラクタースマブラ初挑戦（後書き）

打ち止め「感想待ってまーす。つてミサカはミサカは呼びかけてみたり！」

新住民はホームレス

「ディップ「虹色のボール取つたぞ！」

「ディップ以外「まずい！！」

「ディップ「PKスターストーム！！」

ミソ・オデコ・イチゴチャン残りストック0。よって、ディップの勝利。

マーシー「2回戦やりたい！」

ビヨンズ「あれ？ ほーき雲帰ってきた。」

ほーき雲「ただいま。新住民連れてきたよ。」

相原「相原雄介です。よろしくお願ひします。」

ほーき雲「ここにはまだ家がたくさんあるから暫も住んでいいんだよ。」

相原「非常に嬉しいです。ついにホームレス脱出できて嬉しいです。」

ほーき雲「どうしても家が欲しいという人なら住んでくれると思ったんだ。そうすればお互い嬉しいしね。」

相原「なんかいろいろりますね。」

ほーき雲「ここからはスマーブラメンバーと塊魂のイト」「ハト」「達。とにかく面白いやつだらけ。ホームレスのつらさなんて感じさせないぞ！」

ニック「空き家村も勢いがす」くなってきたね。」

ほーき雲「絶対空き家村なんて呼ばせないほどの盛り上がりを見せやるんだ！」

? ? ? 「どうだ・・・裏切り者・・・。」

続く

相原雄介

相原「お願いです。僕がいるのか聞かれたらいないと黙ってください。僕は狙われているんです。」

ほーき雲「狙われている? まあ大丈夫だよ。ここには空き家しかない。ここに住んでない人は来ないはず。」

相原「でも、家がたくさんあるとしたら、かくまつてると思われるる……。」

ほーき雲「世間にはここは空き家だらけという」とになつていて。空き家にはかくまつてくれる人どころか、かくまつてくれない人すらいないんだからな!」

フーミン「僕がいるからな!」

ほーき雲「バカフーミンみたいな面白いやつもいるし。君も空き家村の住民。そして空き家村グループの一員だ!」

相原「ここなら安心して暮らせる気がするよ。ありがとう!」

一方通行「おい、ほーき雲!」

アクセラレータ

ほーき雲「一方通行? まあいいや。遊びに来たんだね。」

ほーき雲は外に出た。

一方通行「遊びにじゃねエ。最近この辺りに危険なやつがいるから

氣をつけろって言いに来ただけだ。」

ほーき雲「一方通行つて親切なところもあつたんだ。」

一方通行「そこに触れたら殺す。」

ほーき雲「いいや。どうせなら新住民の相原君を家に連れていくの
ついてくる?」

相原も外に出た。

一方通行「そんなもん行かねエよ。」

その時。

パン!

突然銃が遠くからこちらに撃たれた。

幸い、弾は一方通行に当たり、そのまま反射された。

一方通行「言つたろ。危ねエつて。」

相原「もしかして僕を狙つてるやつらかも・・・。」

続く

相原雄介（後書き）

感想ください。

武装無能力集団（スキルアウト）

一方通行「なア、^{スキルアウト}武装無能力集団つて知つてるか？」

ほーき雲「学園都市にいる不良みたいなやつらでしょ。基本的には学園都市にいるわけで、学園都市の外には影響は出ないはずなんだけど。」

一方通行「そのスキルアウトの一つである『新倉団』つてやつらが学園都市の外に出てきたわけだ。」

ほーき雲「でもスキルアウトって学園都市の外に出てきたらただの不良だよね。」

一方通行「そオナンだけどな。新倉団は学園都市の内外共に暴れまわっているかなり大人数の集団、例外中の例外だ。」

ほーき雲は相原が怯えているのを見た。

ほーき雲「もしかしてお前、新倉団に追われているのか？」

相原はうなずいた。

ほーき雲「これで理屈がわかつた。なぜ市民の大半が誰も住んでいないと思つてゐる空き家村にわざわざ現れたのか。」

一方通行「そもそも五武山市の人間ですらなかつた。それに学園都市は閉鎖的な環境だ。それなら知らなくてもおかしくない。」

ほーき雲「こうなれば余計お前についてきてもらわなきゃ危険だ。
僕に戦力はない。頼む。ついてきてくれ。」

一方通行「元々新倉団をどうにかしろって黄泉川よみかわに言われてるんで
ね。やつらの獲物ならいざれこいつの近くに現れる。行くぞ。」

よみかわあいほ
黄泉川愛穂。学園都市の警備員アンチスキルの一人であり、一方通行と打ち止め
(ラストオーダー)に住居を提供した人物だ。

ほーき雲「それじゃ、行こう。相原、安心しろ。こいつは強い。新
倉団からも守ってくれるよ。」

一方通行「壊すのは得意だが守るのは苦手だぞ。まあ新倉団を叩き
潰すつて考えれば同じだ。」

相原「2人共、ありがと。」

続く

武装無能力集団（スキルアウト）（後書き）

もう『一方通行』読みますよね？今日は1回も読み仮名書きません
でしたが大丈夫ですよね？

スマブラメンバー「俺達も行くぞ！」

ほーき雲「それはありがたいけど、全員で来たら人数多すぎるし、この家も守ってほしいから・・・。それじゃMOTHERの2人だけついてきて。他の人はこの家の護衛を頼む。」

ネス・リュカ以外「任せとけ！」

こうして、相原を家に案内する。案内するだけならこんなに人はいらないが、スキルアウトの標的となれば話は別である。

ほーき雲「でも、やつぱり謎だな。スキルアウトが学園都市の外に出てくることに何の目的が？」

一方通行「考えられるのは相原とは別に学園都市の外の人間を狙っているか、相原の方が学園都市の外へ出たために追ってきたか。」

相原「確かに僕は自分から学園都市の外に出た。」

一方通行「まだ問題はある。なぜ人数が多いんだ？ざつと見ただけで30人いるな。新倉団の特徴、相原がレベル0であることを考えると10人いれば十分だ。」

ほーき雲「そりゃあ逃げたやつを探すとなれば人数は多ければ多いほど有利だ。」

一方通行「しかし、新倉団のリーダー、新倉はレベル4の人物探索

バーソンサー チャー

の持ち主。相原の居場所は国内なら簡単に探せるだろオな。まア一度に1人しか探せないがな。」

ほーき雲「待てよ。そしたらスキルアウトの定義はどうするんだよ。スキルアウトとは武装無能力集団。レベル〇の不良の集まりだろ。」

一方通行「それが、最近レベル3やレベル4がスキルアウトをまとめることがあって大変なんだアつて黄泉川が言つてたぞ。」

ほーき雲「厄介だ・・・。」

続く

新倉団（後書き）

感想ください。

相原を家に連れていった

ほーき雲「ここのが君の家だよ。」

相原「襲われなかつたみたいでよかつたです。」

一方通行「だが、いつ来るかわからんねエ。新倉はお前の居場所を知つてゐるんだからな。」

相原「ホームレスで新倉から逃げるのは大変でした。外で寝るのでいつ見つかってもおかしくない状態で、ろくに寝ることができませんでした。でも、これから安心できます。」

一方通行「安心できる訳ねエだろ。新倉はお前の居場所をつかんでいる。俺が護衛をする。ここに一緒に住んで、いつ新倉が来ても大丈夫なようにする。俺はレベル5第一位だぜ。新倉が来たら絶対潰してやる。」

ほーき雲「一方通行だつたらなんとかなるよ。相原、お前も一緒にここに楽しもうぜ。」

相原「僕も楽しんでいいのか?」

ほーき雲「いいんだよ。」

相原「僕だつてあの人達と一緒に遊びたい!」

ほーき雲「そうか、じゃあな!明日にでも来いよ。」

相原「それじゃ、よろしくお願ひします。一方通行さんですよね？」

一方通行「おオ。よろしくな。」

相原「この部屋の間取りだと・・・。あなたは手前の部屋。僕は奥の部屋で良いですか？」

一方通行「好きにしろ。」

相原「じゃあそうします。何もないと良いですね。」

新倉「うまくいってるようにがだな。」

したつぱ「そのようですね。」

新倉「・・・と・・・は絶対に殺す。」

新倉は2人の人物を殺そうとしている。それは誰なのか！？

続く

相原を家に連れていった（後書き）

感想待つてます。

あの日以来、新倉は来なかつた（前書き）

スマプラメンバー役目少ないな・・・。スマプラメンバーを一つの
町に凝縮中なのに。

あの日以来、新倉は来なかつた

相原が空き家村に住んでから数日がたつたが、新倉団は特に何もしてこなかつた。あの日を除いては……。

それは相原を家に入れた直後、相原と一方通行と別れて自分の家に帰らうとしたほーき雲、ネス、リュカ。そこへ新倉団が現れた。

新倉「やあ、早速だが、君達を殺す。」

新倉団は一斉に攻めてきた。

ほーき雲には戦力がない。よって、ネスとリュカが立ち向かう。

リュカ「PKフリーズ！」

あちこちで凍つっていく新倉団。

ネス「PKファイヤー！」

一方、燃えているやつらもいた。

新倉「もしかして・・・あいつらは能力者なのか？」

確かにネスとリュカは超能力を使って戦っている。しかし、ネス達のそれと学園都市のそれは少し違うが、新倉にそれがわかる訳ない。

あっけなく新倉団のしたつぱはやられてしまった。

新倉「今日は逃げるぞー。」

新倉は去つていった。ほーき雲達は追つもつはなかつた。

その後、ほーき雲達はいつものように家に帰り、眠りについた。
田たつても新倉団は相原もそれ以外の誰も襲つて来なかつた。

数

続く

あの日以来、新倉は来なかつた（後書き）

次回は余りにも新倉が来ないので、みんなで盛り上がります。あと
感想待つてます。

ワリオ接待（暴力）ゲーム（前書き）

短いです。

ワリオ接待（暴力）ゲーム

余りにも何も起らなかったため、ほーき雲はみんなで盛り上がりついでに出てきた。

ほーき雲「まずはワリオ接待ゲームね。」

ワリオ以外「そんなのやだ。」

ワリオ「せっかくしる俺の部下だも。」

ほーき雲「誰が最初にやる?」

当然立候補する者はいない。

ワリオ「言に出しひべのほーき雲がやれよ。」

ほーき雲「しようがないなあ。僕の出番だね。」

やつぱり、ほーき雲はワリオを『殴った』。

ワリオ「おー向するんだよー。」

ほーき雲「接待＝暴力じゃないの？」

ワリオ「騙された・・・。」

ほーき雲「そもそも本当に接待なんであると思ったの？そしたら君はフリー（ソルジャー）以上にバカだね。」

ワリオ「そもそも俺が何したって言つんだよー。」

ほーき雲「それは殴りながら教えてあげよ。」

続く

ワリオ接待（暴力）ゲーム（後書き）

ワリオが何をしたかなんて想像すれば正解します。

ワリオ（前書き）

24日17時に自動投稿です。この時、作者は学校で部活の大掃除をしていると思います。

ワリオ

ワリオ「俺が何をした！？」

ほーき雲「何も言わなかつたけどお前ひどすぎだよ。塊魂のキャラクター呼んだら屁こくし、相原を連れてきたらニンニク臭いし。」

「おならの臭いで文句言はせん。」
「俺が罰を与えてやるよ。」

ほーき雲「お前が瞼を剥けろ————.—.」

ワリオ「うぎゃああああああ！」

ほーき雲-何が言ひ」とは?

「アリオ、俺は悪くない」前言撤回じゃ！

「一も雲うじやらいにつけまだ反省してないようだね。みんな、こつボンボンにしていいよ。」

こうしてワリオはボロボロにされました。めでたしめでたし。

続
く

ワニオ（後書き）

25～28日までは、作者が旅行中のため、事前に書いたものを毎日17時に自動更新します。ただし28日は早朝に帰宅するため通常投稿になります。

ほーき雲「今日は新住民が来るよ。ちなみに女性だよ。」

男達「おおーー。」

ほーき雲「ちなみに名前は鈴科百合子すずしなゆうこっていうんだよ。」

マリオ「鈴科百合子かあ。美人かなあ。」

ファルコン「そういえば、相原と一方通行はどうした?」

ほーき雲「今日は集まりたくないから家にいるんだってさ。」

スネーク「新住民いつ来るんだ?」

ほーき雲「もう少しで来ると想つよ。」

女性新住民の登場により盛り上がる男性陣。しかし、このあとどんなトラブルが発生する・・・。

ほーき雲「(ーー)まで期待させといて大丈夫かなあ。」

リンク「その鈴科百合子はどの作品の人?」

ほーき雲「とある魔術の禁書目録だよ。」

リンク「とある魔術の禁書目録だつたら御坂美琴がよかつたなあ。」

マリオ「俺はインテックス派だな。」

ほーき雲「君達の好みは聞いてないし、来るのは鈴科しか来ないし。

「

リンク「俺は鈴科なんてやつ知らねえよ。」

ほーき雲「知らない方が良いじゃん。可愛いかな?とか、俺に惚れるかな?とかってドキドキするでしょ?」

マリオ「最初から可愛いってわかつてる方がいい。」

その時、ドアをノックする音がした。

ほーき雲「お待ちかね。新住民の鈴科百合子が来ましたよ。誰かドア開けに行つてきて。」

男性陣「俺が行くんだあああーーーー!」

鈴科百合子がどんな人なのか知りたい男性陣は我先に玄関へ向かって行く。

鈴科百合子の登場は次回に持ち越しです。

続く

新住民（後書き）

鈴科百合子、暇があれば調べてみてください。どんな人かわかりますよ。

「 ファルコン 」「 これが・・・。鈴科百合子? 」

「 マリオ 」「 イメージと違つ・・・。 」

「 フォックス 」「 おい、ほーき雲! お前このこと知つてただろー。 」

「 ほーき雲 」「 え? 何のことかな? 」

「 フォックス 」「 とぼけるな! この鈴・・・。 」

「 までしゃべつた瞬間、何かに頭をつかまれていふことに気がついた。 」

「 フォックスが振り返ると・・・。 」

「 鈴科 」「 あアン? 僕がどオかしたかア? 」

「 スネーク 」「 しかも一人称俺だし・・・。 」

「 そこには、女装した一方通行の姿があつた。 」

「 ファルコ 」「 おい一方通行、女装したのに口調がいつものままじゃ意味ないだろ。口調も少し女っぽくした方が・・・。 」

「 鈴科 」「 あアン? 僕は鈴科百合子だ。一方通行なンて名前じゃね? 。 」

「 マリオ 」「 じや 一方通行に直接問いただしてみよづぜ。 」

ほーき雲「相原と一方通行は今日は家にこもらひしよ。」

男達「よし、一方通行覚悟しろよーーー。」

続く

鈴科百合子（後書き）

ちなみに鈴科百合子はオリキャラではありません。

相原宅強制訪問

鈴科「でさア、その一方通行ってやつのところ行ってなソになるんだ？」

ほーき雲「本当に別人なのか確かめる。もし本当に別人だったら二人で並んでもうつてどのくらい似てるか調べる。」

マリオ「これで同一人物だつたらただじゃ済まさないぜ。」

鈴科「だから別人だつて言ってンじゃねエか。」

全員は相原と一方通行の家に着いた。

ほーき雲「よし、確かめに行くぞ。」

ほーき雲はドアをノックする。しかし、反応がない。仕方なく、勝手に入った。

ほーき雲「なんだよこれ・・・。」

一方通行が、あの学園都市最強のレベル5が、倒れていた。

ほーき雲「おい、一方通行！！」

一方通行「ン・・・・。」

ほーき雲「まだ意識はあるのか…」
「…じつはんだ！」

一方通行「イマジン…・・・ブレイカー…・・・。」

ほーき雲「幻想殺し（イマジンブレイカー）…」
「…じつはんだ！」

まさか、あの少年が関わっているのだろうか。

続く

相原宅強制訪問（後書き）

感想ください。

第24学区（前書き）

いじから先、話題があたりはじめていくのでつれてきてください。

第24学区

幻想殺し（イマジンブレイカー）といえば上条当麻のことと言つ。

右手で触れた異能の力を打ち消す。それは一方通行のベクトル変換も例外ではなく、絶対能力進化計画が凍結するきっかけになつた。

しかし、今回の事件をどうやって彼に関係させるのかわからないといつのが今の状況。上条当麻が何の理由も無しに人をこんな状態にするはずがない。

ならば、なぜ一方通行が幻想殺しという言葉を口にしたのだろうか。

一旦、五武山市から離れ、学園都市で起きた新倉団の関わっている事件に視線を向ける。

ジャッジメント
風紀委員の白井黒子は学園都市の第24学区に来ていた。

黒子「こんな感じがあつたんですね・・・。」

ちなみに、学園都市の学区は23しかないはずである。この第24学区は上層部でも知らない怪しい空間だ。

「？」
「助けてくださいー。」

黒子「あなたたちは？」

白井黒子が見たのは2人の子供。置き去り（チャイルドエラー）だろうと推理する黒子。

？？？「おっ、あなたはいい実験台ですね。」

そしてその後ろから謎の人影があつた。

続く

強制進化

五武山市サイド

ほーき雲「相原がいないぞーどうしたんだー?」

一方通行「相原が・・・・や・・た・・・・。」

ほーき雲「相原がやられたのか。今になつて動いたか新倉めー。」

メタナイト「ちよつと待て。」

ほーき雲「どうした?」

メタナイト「それじゃ なぜ幻想殺しが関わっているんだ? あの少年は無能力者だがスキルアウトになるようなやつじゃない。そこで説明できるか一方通行。」

一方通行「相原が・・・・。」

ほーき雲「相原がどうしたー?」

一方通行「ぐあアーー。」

ほーき雲「やつぱり無理そうだな。」

? ?? 「結局、私の出番つて訳よ。」

全員「誰だー?」

フレンダ「私はフレンダ＝セイヴェルン。相手が幻想殺しなら私が
そいつの相手をするつて訳よ。」

ほーき雲「ここでフレンダか。僕も知っているけど、まだ上条が敵
つて訳じやないよ。」

幻想殺しがどう関わるのか、その情報はまだわからぬようだ。

学園都市第24学区サイド

黒子「実験！？」

？？？「そう、実験。詳しく言えば能力の強制進化だよ。」

黒子はすうじに力が自分にかかることに気づいた。

黒子「！..」

そして、謎の男にとらえられた3人目を見つけてしまった。

黒子「みんな、3人そろってにげて！..」

？？？「私はあなたが超心配です。」

黒子「いいから..」

黒子は3人に触れていく。そして全員テレポートされた。ただ、3人共どこへ行つたのかわからない。とにかくかなり遠くまで飛ばしてしまつたようだ。能力進化によつて遠くまで飛ばしたが、それを意識できるほど体はついていつていなかつた。

黒子「こうなれば……。」

黒子は最大限の力を使って自分自身をテレポートさせる。

なんとか逃げることには成功した。しかし、ここがどこなのか全然わからない。

黒子「感覚は……戻つてますね。ならばここがどこなのかわかれば帰れますね……。」

続く

強制進化（後書き）

この研究者は今後出てこない可能性があります。

裏切りの相原

フレンダ「戦う前にサバ缶食べたい。」

ほーき雲「サバ缶は」にね無いよ。」

フレンター自分で持ってきた。」これから開けるから『メ』をつけで。」

ハレンタはライターと怪しい物体を取り出した

離れた方がいいよ

スノーボード

次の瞬間

ボカーン！！

いきなり怪しい物体が爆発した。

ほーき雲あれば爆弾だよ。フレンダはサバ缶を爆破して開けるんだ。どうやら缶切りが使えないみたい。

ほーき雲とフレンダ以外「缶切り使えよーー！」

フレンダ「結局サバ缶最高って訳よ。」

フレンダ以外「・・・。」

しばらくして

フレンダ「さあ行こう。」

ほーき雲「フレンダがサバ缶食つてる間にづらかった。」

フレンダ「しかし敵はどうだいひつね？」

その時、

新倉「おっ？現れたなスマブラメンバービも。」

ほーき雲「そつちこそ、自分から現れるとはそうどつ負けたいみたいだな。相原は返してもらう。もちろんお前も潰す！」

一方通行「じゃあ早速やられてもいいつか三下アー！」

一方通行は脚力のベクトルを倍増させて新倉に飛びかかるとした。しかし、一方通行は自分の能力を使う前に何者かに押さえられた。

バギン！という音がしたため、一方通行は後ろを向く。そこには相原の姿があった。

相原「散々殴ったのに、さすがレベル5。しぶといね。」

一方通行「ツ！…！」

相原は一方通行を殴った。相原、一方通行、新倉団以外の誰もが驚いた。

ほーき雲「相原、お前何やつてんだよ…。」

相原「え？『敵』を殴ってるだけだけど？」

続く

裏切りの相原（後書き）

感想ください。

新倉団が動く理由

相原「僕は『幻想殺し』を持つているんだ。どつかの上条つてやつと同じだよ。」

一方通行「ツ……」

つまり、上条当麻に負けた者が相原に勝てる可能性は低い。それより気になることがあった。

ほーき雲「お前は敵なのか?」

相原「そうだよ。新倉団のサブリーダーだ。」

ほーき雲「じゃあなゼ!」¹¹¹?

相原「狙いはお前だよ。」

あつやり告げられた。『新倉団はほーき雲を狙っている』。

ほーき雲「何のために…? 僕はただここで楽しく生活をしているだけなのに…」

相原「レベル5の、しかも学園都市最強を味方につけたお前が言うセリフか? おまけに変な世界から変わったやつらを連れてきたりよお。おかげでお前はあちこちから危険視されてるんだよ…」

相原がほーき雲に向かつて言葉をぶつけた。それに対してもほーき雲はあつやり発言する。

ほーれ雲「一つ警告。後ろも見ろよ。」

新倉団がそろりと後ろを向くと、そこには2・5mくらいの謎の物体がこちらに向かって転がつて来ていた。しかも、その物体にはたくさんの『モノ』がくつついていた。

新倉「なんじゃありやあああああ——————！」

続く

新倉団が動く理由（後書き）

転がってきた物体の正体。わかる人にはわかります。

連載30話記念、そして大晦日記念として新倉には星になつてもいい（前書き）

じんでもないタイトルだ・・・。

連載30話記念、そして大晦日記念として新倉には星になつてもらひ

ほーを雲「あ、あれは・・・。」

王子「やあ、新倉団なんて巻き込んでやるよ。」

新倉「ちょっと待て、やめろひでー！」のままじや巻き込まれる……」

ほーき雲ー負けを認めろ。新倉。そしてみんなそろつて星になれ。

新倉一 それ死ねうてことか!?

ほーき雲「いや、死ぬんじやなくて本当に星になれ。本物の星になつて夜空に浮かべ。」

新倉「本気か！？」

ほーき雲「王様に頼めばたぶん本気。」

ほーき雲「や〜よ〜なら〜」

全員「魔の音符だ・・・。」

魔の音符とは裏の感情丸出しのことである。これをつけた発言を向けられたら死ぬかそれと同等の何かを食らう。それ以外にも魔の星、魔の流れ星などがあるが、意味は同じ。

そんなこんなで、新倉団は1人残らず巻き込んでしまった。

王様「コレ星ニスルノ?」

ほーき雲「お願いします。」

王様「エイツ!」

いつして、新倉惑星が誕生した。めでたしめでたし。

その時、ほーき雲は1人の少女を見つけた。

?/?/?「私超住む場所がありません。どうにかしてくれませんか?」

ほーき雲「あつ、まさか・・・。」

この新登場人物が次の物語の始まりだった。

続く

連載30話記念、そして大晦日記念として新倉には星になつてもひつ（後書き）

次回から新章スタートです。さらに作者が大好きなキャラクターが登場します。

番外編、初詣（前書き）

本編はいつたん置いといて、今日は元日なので初詣をやりたいと思います。ちなみに参加したのはスマブラメンバーとある魔術の禁書目録の一部のキャラクターです。ストーリー進行状況は関係ありません。

ほーき雲「初詣行くの遠かつた・・・。」

五武山市には神社は1ヶ所しかない。それは空き家村とは間逆の場所にある。結果として、全員初詣に行くだけで時間がかかる。

ほーき雲「それではみんなお願ひしよう!」

美琴「（懸賞のゲコ太ストラップが欲しい）」

当麻「またゲコ太ストラップかよ。」

美琴「つるさいわね！！」

いきなりビリビリつを食らわせる御坂美琴。上条当麻は右手で受け止める。いつもこのことを毎日のようにやっている。

美琴「次はアンタよ。」

当麻「（幸せになりたいです。せめて『不幸だ！』って言いつ回数を7割くらいにしたい。）」

ほーき雲「さすが『THE 不幸』こと上条当麻。」

当麻「だつてもう不幸は嫌なんだよ！！」

ほーき雲「そつそつ、しばらくしたら不幸バトルとかする？他の作者さんから不幸なキャラクター募集して誰が一番不幸か競うんだけ

ゞ・・・。」

当麻「それ勝てそうだけど勝つていいの?」

ほーき雲「そこは微妙なところ。さて、次は誰かな?」

ワリオ「(扱いが良くなりますよ。)」

マリオ・ルイージ「(ルイージ(兄さん)よりもいい役になりたい
!...)」

ほーき雲「(永久にルイージがいい役だと思つけどな・・・。)」

王子「(特大の塊を転がしたい。)」

などいろいろありました。

次回から本編スタートです。

番外編、初詣（後書き）

不幸バトルはしばらくしたらやります。なので不幸なキャラクターを募集します。またあとで活動報告も書きます。

綱旗新登場…（前書き）

今日は3DSでダウンロードした体験版ゲームにはまって更新が遅くなりました。すみません。

絹旗新登場――

ほーき雲「まさか・・・絹旗最愛?」

絹旗「超ぞうですよ。」

ほーき雲「やつぱり絹旗だ。」

一方通行「ジオしたンだ?」

ほーき雲「以前大霸星祭行つたときに出来つたんだよ。」

一方通行「へへ・・・。」

絹旗「今でもやつぱり超ほーき雲なんですね。」

ほーき雲「それで、空き家村に住みたいのね。じゃあ僕の家のすぐ隣が空いてるからそこで良いね?」

絹旗「超OKです。」

ワリオ「ちょっと待てーお前の家の隣空いてたのかよーじゃあなんで俺はすこく遠いところになつてるんだー?みんなのところ行くの大変なんだぞーーー!」

ほーき雲「誰でも考えりやわかる話だ。僕は君は嫌いなんだよ倭痢汚くん。」

倭痢汚「お前のオリジナルワリオ作るなー他の小説でもこんな役な

の。「

ほーき雲「おい倭痢汚、そもそもお前はそういう役なの…それは全世界共通なの！」

倭痢汚「俺の居場所はどこなんだよ…」

ほーき雲「第10学区辺りかな？」

倭痢汚「第10学区つて少年院とか墓地とかがある第10学区?」

ほーき雲「それ以外に何があるの?」

倭痢汚「…」

ほーき雲「といつわけで楽しい生活の始まりだぜ…!（倭痢汚以外ね。）」

続く

絹旗新登場！！（後書き）

次回は絹旗たくさん出ます！！

絹旗歓迎パーティー（前書き）

本日もふよふよの体験版にはまっています。しかし今日はさつきと更新してその後ふよふよを楽しむことにします。

以下はふよふよを知ってる方のみ読んでみてください。知らない方が読んでも良いですがわかりますかね・・・。

僕はこの体験版しかやったことありません。ただ、だいたいわかつてきただので良かったです。

りんごっていうキャラクター強すぎです。ラフィーナで戦つても勝てるかどうか・・・。

大量に降つてくる邪魔ふよふよに耐えられません。ばたんきゅー。
ちなみに体験版なのでキャラクターは4人しか使えません。ばたんきゅー。

前書きたくさん書きました。ばたんきゅー。

絹旗歓迎パーティー

ほーき雲「絹旗が来てくれるなんて嬉しい限りだよ。」

リアルほーき雲も絹旗大好きです。

その頃絹旗は・・・。

絹旗「あなたたちの存在は超秘密ですからね。」

? ? ? 「大丈夫、ほーき雲がここに来る確率10%にしておいたからね。」

絹旗「超0%にはできないんですか?」

? ? ? 「0%ができたら僕はレベル4ですよ。できないからレベル3なんですね。」

? ? ? 「私もレベル3だけど一応紫を偵察させてるから大丈夫。」

絹旗「あれ超目立ちませんか?」

? ? ? 「まあまあ。」

ほーき雲サイド

ほーき雲「縄旗へ、みんなと一緒に集まるから出てー。」

確率を低くしたところで縄旗大好きなほーき雲が現れない訳がなかった。

縄旗「はーい。」

ほーき雲「今日は縄旗最愛歓迎パーティをやるんだよ。主役だからね。」

縄旗「パーティの超主役ですか・・・。」

そしてパーティ会場。（空き家村の一番端にあって、少し外にはみ出ているマスターハンド（今は空き家村ではない。）管理の謎のホール。）

ほーき雲「縄旗さん、よつこや空き家村へー。」（空き家の密集地帯、だけど絶対住民増やしてやるんだー。）

縄旗「超よろしくお願ひします。縄旗最愛です。趣味はC級映画鑑賞です。それもハリウッド狙って作ったのに最終的にC級になっちゃった超天然系のやつ。」

ほーき雲「それじゃあ食つて騒げのパーティの始まりだぜー。」

絹旗「食べ物ならあの人達がさつさと食べて超なくなつたんですけど。」

そう言って、絹旗はピンク球と緑の恐竜を指差す。

カービィ&ヨッシー「あはは。」

続く

絹旗歓迎パーティ（後書き）

感想ください。

新住用ラッシュ？（前書き）

今日は部活があつたので忙しくて更新遅れました。

新住民ラッシュ？

絹旗「住民を集めているならば、人は超多い方がいいですか？」

ほーき雲「確かに多い方がいいね。新住民紹介してくれるの？」

絹旗「と言つても2人だけですけどね。」

ほーき雲「もしかして能力者だつたりする？」

絹旗「はい、2人共レベル3です。」

ほーき雲「それじゃ、会いに行こう！」

その2人の能力者に会つた時に変な物を見た。何か紫色の物体が動いていた。

?????「あつ、驚かせちゃつたね。それは私の能力で作り出した物体なんだ。『柔物操作』^{ソフトコントロール}。それが私の能力だよ。」

絹旗「あれ？水本、なんで超外出してるんですか！？」

水本「だつて山野が外出して危ない目に会つ確率を10%にしたつて言つたんだもん。」

絹旗「あつ、超山野！勝手に自分の能力使つて外出するな！」

山野「だって、確率低くしたら大丈夫なはずでしょ。」

新住民は水本と山野。水本は女で、山野は男。どちらも小6か中1くらいだ。ほーき雲は田の前の光景を見ながら感じた。

絹旗「こいつらが新住民、山野良太と水本彩奈。山野の能力が確率を自由に変えられる『確率変化^{バセントージ}』で、水本の能力がカラフルな柔軟物体を作り出す『柔物操作^{ソフトコントロール}』です。」

水本「私の作る物体には特性があつて、赤は粘着力が良いがベチョつとしている。青は弾力性に優れているが発射最大スピードが遅い。緑はハイスピードで飛ばせるけど少し硬め。黄色は攻撃力が高いけど連射はできない。紫は唯一自分の力で動けるけど融通が聞かないことが多い。こんな感じかな。」

ほーき雲「じゃああの黄色い帽子かぶっているやつに赤をぶつけてやつて。」

水本「えいつ！」

ワリオ風の人「うわっ、顔直撃だぞ！あとお正月の格闘チェックみたいに書くなよ！」

ほーき雲「やつぱりお前映す資格無し。（笑）」

ワリオは消えました。

続く

新住民ラッシュ？（後書き）

感想ください。

大乱闘開始の少し前

ほーき雲「暇だし、大乱闘でもしない?」

スマーブラメンバー「いえーい!」

ほーき雲「ルールとして、負けたらあの赤いゲートに入つてもらうからね。」

全員が見た方向には、いかにも怪しげなゲートがあった。

全員「よく道のど真ん中にこんなゲート作つたよな・・・。」

ほーき雲「ここは空き家村だからね。基本的に僕達以外はこの道を通らない。だから大乱闘やつてもやや大丈夫なわけ。」

全員が納得したあとほーき雲が続けて言つ。

ほーき雲「面倒だから適当に名前呼ぶよ。じゃあまず一方通行▽S ワリオ▽Sヨッシー▽Sカービィね。」

全員「(殺りたいやつを一方通行とバトルさせれば絶対負けるってことか。カービィとヨッシーはパーティの食べ物全部食べたからな。)」

ほーき雲「1位じゃなければ赤いゲート行きね。じゃあスタート!」

ワリオ・カービィ・ヨッシー「無理無理! ! !」

ほーき雲「がんばれ！勝てばいいんだよ。」

続く

大乱闘開始の少し前（後書き）

一方通行に勝てば怪しい赤いゲートを通らなくてすむ！（無理だと
思つけど・・・。）

吸い込んだら吹き飛ぶ

一方通行「かかってきなアニトア！」

ワリオ「お前が死ねえええ——！」

真っ先に一方通行にどびかかつたのはワリオだ。

当然だがワリオの攻撃は当たらぬ。全て反射している。

ヨツシ一「一方通行と戦つのに集中しているワリオをやつつけよう！」

ヨツシ一がワリオの場所に着いた時、すでにワリオは一方通行の攻撃で倒されていた。

一方通行「次はお前かア？」

ヨツシ一「ツ……」

一方通行は1発殴つただけ。しかしベクトル4倍にしているため、威力も4倍である。

一方通行「学園都市最強の俺を倒そうなンて甘い考えなンだよ。」

残つたのは一方通行とカービィ。

カービィ「（一方通行、強い……。もし、コペーできたら立ち向かえるかな。）

カービィは吸い込みを始めた。しかし、それで一方通行を倒せるはずがない。

一方通行「フン、吸い込むだけかよ。そんなんで俺に勝てる訳が・。
・。」

吸い込むだけでは一方通行は倒せないとthoughtた次の瞬間！

一方通行「何ッ！？」

一方通行が『カービィと逆の方向に吹き飛んだ』。

ほーき雲「そういうことか。」

全員「どうこうこと？」

ほーき雲「いいかい、一方通行はあらゆるベクトルを『反射』する。でも、言つてしまえばそれだけなんだよ。」

全員「あつ・・・。」

ほーき雲「そう、カービィは一方通行を吸い込もうとした。つまり一方通行からカービィの方向にベクトルが働いたことになる。それを『反射』したから、一方通行はカービィと逆の方向に吹き飛んだわけ。」

一方通行は何回もカービィにとびかかる。しかし、カービィは『吸い込む』という攻撃で一方通行を『吹き飛ばして』いく。

結局、勝つたのはカービィだった。

ほーき雲「それじゃ、負けた3人は赤いゲート入ってね。」

3人「嫌だ・・・。」

続く

吸い込んだら吹き飛ぶ（後書き）

感想ください。

■ゲームタイム（前書き）

今日は学校で居残りしました。理由はお察しください。（笑）

罰ゲームタイム

ほーちゃん「じゅあ、まだ最初に負けたワリオかい。」

ワリオ「いかにもヤバそつ・・・。」

ワリオが通ると・・・。

ワリオ「ふわやーーー！」

おもつが降ってきた。

全員おもつの重さを確かめてみた。

『 8 . 17 』

全員「半端・・・。そんな半端なおもつビリあるだよ。」

ほーちゃん「これ用におもつ作ってくれって頼んだらやつ不器用で・
・・・・・・・・・・」
「ヒトヒトで次ヨッシーね。」

とある处罚の緑色恐竜「とある处罚の緑色恐竜って何だよーーー。」

ヨッシーが通ると・・・。

ヨッシー「ふわやーーー！」

ほーき雲「あつ、これ8・17セオンリーになつてゐる。設定変えて・
・・つと。じゃあもう一回頼むね。」

「！――！」
とある处罚の緑色恐竜「なんで2回受けるんだあああああ――！」
でっていう

ヨツシー以外「とある处罚の緑色恐竜になつてゐる」のはつゝじま
ないんだ・・・。」

たぶん余裕がないのだろう。

ヨッシー「なんだ・・・?」

そしてヨッシーは倒れた。

ほーき雲「あ、それは僕がチャットで飲んで倒れたことがあるダーグマターデリンク。」

一方通行「次俺の番かよ・・・。」

ほーを雲「行け！」

一方通行「まあ、俺は何が」よつと反射するだけだけどな。」

安心したのもつかの間だった。

一方通行「ツ！！」

ほーき雲「今度はチャットのダークマタードリンクの他に垣根帝督
が作つたオリジナル未元物質を混ぜたやつ。垣根帝督のダークマタ
ダークマター

ーはチャットのダークマターと違つて『この世に無い物質を作り出している』から反射は効かないんだと思うよ。もっとも、そのダークマターも含めて再演算すれば大丈夫だけど。』

こうして3人は地獄を味わいました。

続く

■ゲームタイム（後書き）

10日から学校のウインターキャンプで長野にスキーに行くので13日まで毎日17時に予約投稿となります。

甘いものを配るいかにも怪しい男はほつと/or戦の参加者紹介（前書き）

逃走中は録画中です。

甘いものを配るいかにも怪しい男はほつといて2回戦の参加者紹介

？？？「ちよつと、甘い物を受け取つてくれないかな？」

「はー わふ 「?.?」

子供達一わー！！！」

五
卷之三

「あやめ」

「うひて謎の男は去つた」

「ほーき雲」いかにも怪しいやつだったけどなあ。なんだよあれ。表
が深緑で、裏が黄色つて。・・・・・・・・・・・・・・・・・・
まあいなくなつたから2回戦行こつかー!2回戦は縄旗最愛▽Sフレ
ンダ▽Sマリオ▽Sクッパだよ。」

絹旗「フレンダさん。同じ『アイテム』の人間だからって容赦しませんよ。」

マリオ「クッパくん。スーパーマリオシリーズではいつも負けてるけど勝てるのかなあ。」

クツバ「あれは城にあるスイッチのおかげだろ。あれが無かつたら何もできない癖に。」

ほー先輩「随さん本気ですね。では、スタートーー！」

五武山市のどこかで

? ? ? A r 「また異世界に飛ばされたんだね。」

? ? ? A p 「怪しい実験はやめた方がいいって言いましたよね？」

? ? ? R .i 「すみませんでした。」

? ? ? A m 「確かそれで実際の部室爆破させたって？？？A p から
聞いたよ。」

? ? ? S h 「あの甘党の？？？R e はどうへ行つたんだ。まあそれ
よりも今日こそ？？？A r を手に入れる。」

? ? ? A r 「またヘンタイみたいなことを・・・。」

? ? ? S h 「ヘンタイつい・う・なー！俺は？？？A r の魔力が
欲しいだけだ！！」

「いづらは魔術サイドの人間なのか？

続く

甘いもの配るいかにも怪しい男はほつといて2回戦の参加者紹介（後書き）

五武山市に飛ばされた人達はもつと人数います。セリフが無いだけ。
(笑)

2回戦

第2回戦スタート

クッパ「まずはマリオを倒してやる……」

クッパが動き出すが……。

ボカーン

クッパ「なんだなんだ！？」

フレンダ「まさか3秒で引っかかるとは。」

クッパ「……。（戦闘不能）」

クッパ脱落

ほーき雲「フレンダが爆弾仕掛けてたね。」

絹旗「フレンダ、それは超自滅行為ですよ。だってクッパが脱落したらマリオが私達を攻撃してくるんですよ。」

フレンダ「結局、最終的にはそうなる訳よ。」

マリオ「そうだな。クッパがやられたなら次の標的はお前らになるぞ。」

フレンダ「えいっ。」

マリオ「ツーーー？」

ボカーン

マリオ脱落

ほーき雲「マリオ弱つ！」

そういうことを言っているうちに絹旗は倒れているクッパを片手で持ち上げた。

実際には手から薄い窒素の膜が出ている。これが絹旗の能力『アーマー装甲』だ。

絹旗「そらつ！」

クッパを投げる絹旗最愛。ただ、2人とも実際はただの中学生くらいの少女であり、クッパに潰されて耐えられず、フレンダ脱落。勝者は絹旗最愛。

絹旗「超楽勝でしたね。」

ほーき雲「はい3人罰ゲーム。」

3人「やだあ。」

続く

2回戦（後書き）

感想ください。

闇ゲーム2

ほーき雲「じゅあまづフレンダかい。」

フレンダが通ると・・・。

ベチョ!

フレンダ「きやつ、何これ!? 赤くてベチョつとしてるよ。」

ほーき雲「それは水本彩奈の能力で作った物体の赤バージョン。ベチョつとしていて粘着力が強いのが特徴。まあ4時間経てば消えるから。」

フレンダ「4時間も待てないって訳よー。」

ほーき雲「次はマリオ。」

マリオ「何でもかかつて来い!」

ベチョ!

マリオ「つて泥かよ! なんかどんどん雑になつてない! ?」

ほーき雲「気のせい。続いてトロのクッパ。」

クッパ「やだあ。(鳥はフル)だろ・・・。」

鳥「うひうひ! 小声で何言つてんだよー! ?」

意味を間違えているのか、ただのボケなのかは不明。そして・・・。

ガガガガガガガガガガガガボチャーン

クッパ「熱つ！！」

ほーき雲「いつものマリオゲームでおなじみのクッパの倒し方。そんじや3回戦行こうかな～。」

クッパ「俺は無視かあああ————！」

2話前に現れた怪しいやつらは空き家村に足を踏み入れていた。

????A「ここいら辺全然人がいないっぽい。家はたくさんあるのにね。」

????Am「なんか静かだよね。」

????St「ここに新しく????Arとの新婚スイートホームを・・・」

????Ar「だからボクは????Stとは結婚しないって言つてるでしょ。このバカ????St！！！」

? ? ? A c 「あれ?、 ? ? ? F eさんと? ? ? K eさんもいなくな
りましたよ。」

? ? ? R a 「大丈夫ですよ先生。あの2人は? ? ? R eを追つてい
るだけですから。」

続く

■ゲーム2（後書き）

こいつらの正体はわかる人にはわかります。次回スマブラメンバー達とぶつかります。

次回も17時投稿です。

乱入者

ほーき雲「続いて3回戦。ルイージ▽Sファルコ▽Sソニック▽S・
・・。」

？？？Ra「私も参加させてもらえないかしら？」

ほーき雲「なんなんだ！？」

ラフフィーナ「私はラフフィーナ。最強の格闘女王ですわ！！」

？？？Rr「ちょっと何よ！私をさしあいでそんなことを・・・。
私が最強なのよ！」

ほーき雲「（面倒なのが来たな・・・。）名前は？」

ルルー「ルルーです。」

ほーき雲「それじゃあラフフィーナ▽Sファルコ▽Sソニック▽Sル
ルーで行こう！」

ルイージ「（やった。これで罰ゲームの心配が無い。）」

ほーき雲「よーい、スタートーーー！」

？？？Ar「なんか戦い始めちゃったね。」

？？？Ur「（しかしどうすれば？？？Arを手に入れられるんだ
？）」

？？？A 「またヘンタイ発言・・・。」

？？？Sh 「ヘンタイつて言つたなーー！」

続
<

乱入者（後書き）

感想ください。

謎の魔術師

ラフィーナ「行くわよーーー！」

スピードをあげて動き出したラフィーナ。他の3人もそれなりにスピードが出せるため、ほとんど戦闘状況がわからない状態となつている。

ラフィーナ「虹弧シエルアーチ！ー！」

ソニック「うりやあーーー！」

叫びを聞くくらいしか状況判断手段がない。その中、脱落者が出了。

ルルー「このスピードにはついていけない・・・。」

ラフィーナ「（それで最強を召喚るのは281年早いですわーーー）」

心に思うことはできるが、声に出すことはほぼ不可能。これはスピード戦だからだ。しかも半端・・・。

そんな中、ほーき雲の近くで誰かがつぶやいた。

インデックス「あの人、魔術師？」

ほーき雲「つていつの間にインデックスーーー！」

インデックス「あの紫色の髪の人から魔力を感じる。いや、それ以外にもあつちで見ている人達にも魔力を感じる。戦っている人の属

性は拳、あの剣士は闇だね。あとあの青と白の服にオレンジの髪の人。あの人の属性は火だつたり氷だつたり、よくわからない。私の10万3000冊の魔導書を使っても全員よくわからない。」

ほーき雲「つまり、あいつらは突然現れた謎の魔術師ってことなの？」

続く

感想ください。

上条当麻 × アルル・ナジヤ（前書き）

ウインター キャンプから帰つて来ました。今日は自力投稿です。

上条当麻 × アルル・ナジヤ

インテックスの言葉を聞いた????A'rは発言した。

? ? ? A'r「ボク達は魔術師じゃなくて魔導師。どっちも魔力はあるんだけどね。」

その時、大乱闘の決着が着いた。

ソニック「俺が勝ったぜ！」

ラフィーナ「けつこうスピードありますわね・・・。」

ほーき雲「ここでストップ。番外戦を開始するよ。この・・・君誰？」

? ? ? A'r「ボクはアルル・ナジヤっていうんだ。」

ほーき雲「そのアルル・ナジヤと戦う人誰かいないかな？」

水本「私相手したい！私の柔物操作ソフトコントロールで戦つてあげる！」

ここで、少し時間をさかのぼります。

アルル「うわあ！」

当麻「わっ！」

アルル・ナジャと上条当麻が曲がり角でぶつかった。その時だつた。

バキン！といふ音がした。

当麻「（えつどつこつことだ？）あ・・・すみませんでした。」

アルル「いえいえ・・・。（さつきの音は句？）」

そして、2人は別れていつた。

当麻「なんで俺の右手が反応したんだ？・・・ってあれ？インデックス！？」

その頃インデックスは・・・。

インデックス「何か魔力を感じた。何があるよあの人。」

こつしてこの話の最初に至る。さらにこの出来事がこの後を左右する。

続く

上条当麻 × アルル・ナジヤ（後書き）

感想ください。

ふよふよキャラ「競場（前書き）

・・・つてもつと前からいたか。（笑）

ふよふよキャラ登場

水本「ちょっと無理してみようかな。」

水本彩奈は連射能力が劣っている黄色物体を4発撃つた。黄色は攻撃力が高いため、戦闘に使いたいのだ。

黄色物体がアルルに向かって飛んでいく。そこでアルルは叫んだ。

アルル「ふよ！？」

アルルは4つの黄色物体を一つにまとめる。

アルル「これで消えるはず！」

水本「？？」

当然だが、黄色物体は消えなかつた。

アルル「おかしいな。ふよを4つくつつけたのに消えないよ。」

水本「ねえねえ。ふよって何？」

アルル「ふよって……だからそれ……。」

水本「これは私が作り出した物体。ふよなんて名前は無いよ。」

アルル「この世界にふよは無いの！？」

ほーき雲「もうこいつとか。君達『ふよふよ』のキャラクターだつ
たんだね。」

アルル「やつぱり異世界なの…？」

??.?A?「先輩、どうしてくれるんですか…」

??.?R.?「…。」

ほーき雲「相はつなんじで、君はつすべませんばいだね。」

??.?J?「?.?.?A?」「ナウですナビ…。」

つすべませんばい（?.?.?R.?）「実験大失敗だ。」

ほーき雲「とにかく『五武山市』の『おき家村』だよ。もじょかつた
ほーき雲「とにかく『五武山市』の『おき家村』だよ。もじょかつた
ほーき雲「とにかく『五武山市』の『おき家村』だよ。もじょかつた
ほーき雲「とにかく『五武山市』の『おき家村』だよ。もじょかつた

アルル「じゃあ、そりこようつかな。」

アルル先生「といひで、サタン先生、レムレスさん、クルーク
ん、フーリさんまでいます。」

ふよふよメンバー「あ…。」

続く

ぶよぶよキャラ登場（後書き）

レムレスとクルークとフェーリーがどこかへ行つたというのは知つて
いたが、サタンまでいなくなるとは心配だ・・・。

サタンはまた変なことしそうだから。（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2698z/>

スマプラメンバーを1つの町に凝縮中

2012年1月14日18時48分発行